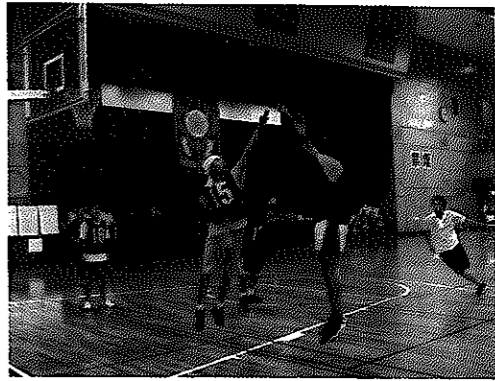


スピードあふれるプレーに歓声

第4回白根市3on3
バスケットボール大会



九月十日、カルチャーセンターで、スリー・オン・スリーのバスケットボール大会が開かれました。スリー・オン・スリーとは、通常のコート半分の広さで、三人対三人で対戦するバスケットボール。攻守が激しく入れ替わるため、スピードあふれるゲーム展開が魅力です。今大会には、小学生・中学生・一般の部に分かれ、市内外から、四十二チームが参加。ロングシュートなど、選手たちの素晴らしいプレーが続出するたびに大きな歓声が上がっていました。

友達いっしょに遊べたよ

子ども佐渡島探検隊



八月二十三日から二十五日までの三日間、中央公民館主催の「子ども佐渡島探検隊」が佐渡の相川町で行われました。これは、海や山に囲まれた大自然の中で、子どもたちに共同生活の楽しさや厳しさを体験してもらおうことを目的に行われたもので、市内の小学五・六年生二十九人が参加しました。子どもたちは、地元の人たちとのゲートボールや、佐渡沖で捕れたイカで塩からを作るなど、見知らぬ町での新しい出会いや体験で、夏休みの思い出をつくりました。

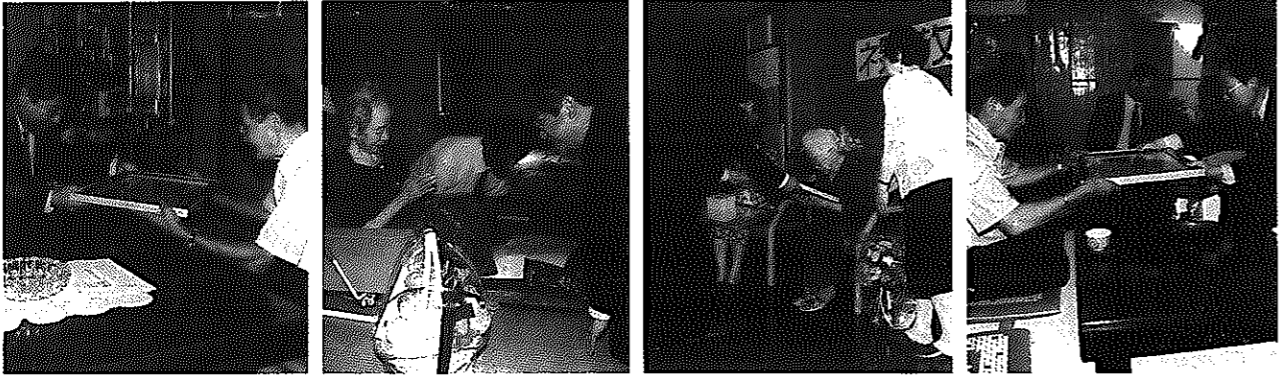
100歳おめでとう

平成12年度表敬訪問

九月十五日の敬老の日、竹内市長が今年度で百歳を迎える田村トリスさん(七軒町)、杉沢ミワさん(魚町一)、高井ミヤさん(庄瀬二)、中野カウさん(白井)を表敬訪問し、お祝い状と記念品を贈りました。

杉沢さんは、現在入所しているケアハウス虹の家(湯東村)の敬老会と一緒に行われた表敬訪問で、親族の皆さんをはじめ、施設の職員やほかの入所者たちからも祝われました。「私のためにみんなから祝ってもらってとても幸せです」と元気な声でうれしそうにあいさつをしました。

高井さんは表敬訪問に緊張した様子でしたが、お祝い状が贈られると手を合わせ、喜んで受け取っていました。田村さんは入院中のため、中野さんは寝たきりのために、ご家族がそれぞれ代理で受け取り、長寿を祝いました。



まちの話題

凧作りで国際交流

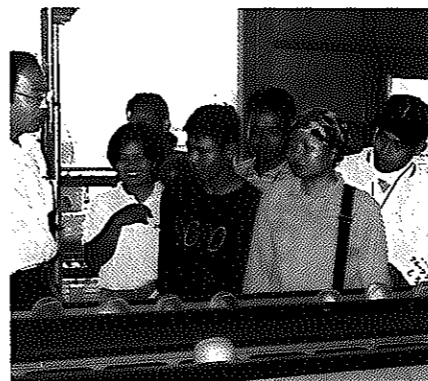
はばたけ 未来の子どもたちへ



ロシアのハバロフスク市とウラジオストク市の子どもたち三十人を招いた国際交流事業「はばたけ21未来の子どもたちへ」の一行百人が、八月二十四日、しろね大凧と歴史の館で凧作りに挑戦しました。この事業は、子どもたちに国際感覚を身に付けてもらうと毎年行われているもので、今年で九回目を迎えます。「凧を作るのは初めて。すごく気に入りました」「こんな大きい凧はロシアにはありません。とても驚きました」と子どもたち。出来上がった凧を屋外で試し揚げしたり、六畳大の白根の凧を揚げたりして交流を深めました。

白根での思い出すぼろい

アセアン農業研修生



(社)新潟県国際農業交流協会では、農業の近代化を推進する人づくりへの協力と友好親善のため、毎年、アセアン諸国から農業研修生を受け入れています。今年はいンドネシアから、七人の研修生が来県。四月から新発田市や小千谷市などの受け入れ農家に分かれて農業を学んでいます。その一環として、八月十八日から三十日までの十三日間、白根市での集合研修が行われました。七人は白根地区公民館や市内のホームステイ先に宿泊。農業施設の見学や農作業を行ったほか、「楽しもってまつり」のいかに下りにも参加するなど、市民との交流を楽しみました。

白根の魅力再発見

ぐるり白根 親子農業体験



八月三十日、親子で農業を体験してもらおうと、「ぐるり白根」親子農業体験Ⅱが行われ、二十五人が参加。白根で食用菊、大郷でキュウリ、トマトを栽培する農家で収穫体験などをしました。櫛笥の養豚農家では、衛生管理の整った豚の飼育の様子を見学したり、子豚を抱かせてもらったりしました。昼食後は白根学習館でインターネットを体験。白根市のホームページなどを見て情報を得ていました。参加者からは「白根に住んでいても初めて知ることが多く、いい勉強になりました」「収穫体験がおもしろかった」との声が聞かれました。

大きな輪になって盆踊り

楽しもって大鷲夜まつり



八月二十六日、大鷲地区農村公園で大郷・鷲巻地区公民館と大鷲夜まつり実行委員会の共催による「楽しもって大鷲夜まつり」が行われ、約七百人が訪れました。祭りの開会前には、公園内の雑草と交換に焼きそば、豚汁、綿あめの無料配布とターゲットボードゴルフの体験講習会が行われ、列ができるほどの盛況ぶりでした。開会後は宮のほりばやしクラブの演奏やレクダンスなどのアトラクション。最後に盆踊り大会が行われ、大きな輪になって踊りました。中には仮装した人もいて、会場を楽しませていました。

TOPICS